

Apereo Foundation との連携を通じた グローバルなオープンソースコミュニティへの寄与

梶田 将司¹⁾, 畠山 久²⁾, 大西 淑雅³⁾

1) 京都大学 情報環境機構 IT 企画室

2) 法政大学 情報メディア教育研究センター

3) 九州工業大学 学習教育センター

kajita.shoji.5z@kyoto-u.ac.jp

Contributing to the Global Open Source Community through Collaboration with the Apereo Foundation

Shoji Kajita¹⁾, Hisashi Hatakeyama²⁾, Yoshimasa Ohnishi²⁾

1) IT Planning Office, Institute for Information Management and Communication, Kyoto Univ.

2) Research Center for Computing and Multimedia Studies, Hosei Univ.

3) Learning and Teaching Center, Kyushu Institute of Technology

概要

大学 ICT 推進協議会では、大学での利活用を前提としたオープンソースソフトウェアの開発コミュニティである Apereo Foundation との間で相互協力を進めるための覚書を結ぶ手続きを進めている。本セッションでは、世界の大学が、オープンソースソフトウェアをどのように位置づけ、活用しているかを、Apereo Foundation のグローバルな活動を通じて紹介するとともに、Sakai をはじめとする Apereo コミュニティへの貢献を振り返ることで、今後、どのような貢献が我が国から可能かを探る。

1 はじめに

オープンソース技術部会の活動の一つとして、会員間および他団体との連携を図り、オープンソースソフトウェアに関する合同研修や共同開発などの企画・推進が挙げられる [1]。現在、オープンソース技術部会では Apereo Foundation [2] との MoU (Memorandum of Understanding) 締結に向けた手続きを進めている。MoU では、AXIES と相互協力という形で Apereo Foundation との連携強化を目的としている。

本企画セッションでは、これまでの Apereo コミュニティとの関わりを例に、AXIES としてオープンソースコミュニティにどのような貢献ができるか、話題提供や議論を通じてその可能性を探る。本稿ではセッション先立ち、これまでの動向と現状の課題を整理する。

2 Apereo Foundation について

Apereo Foundation [2] は、2012 年に Jasig Foundation と Sakai Foundation が合併してできた NPO

で、Sakai や CAS といった高等教育機関で利用されるオープンソースソフトウェアの開発を支援している。世界 57 の大学・企業・団体等が加盟しており、日本からは京都大学・名古屋大学・法政大学・兼松エレクトロニクス株式会社が加盟している。Apereo Foundation の下で、現在は Sakai、uPortal、CAS を含む 12 件のプロジェクトと 4 件のインキュベーションプロジェクトが進められている。

3 これまでの Apereo コミュニティとの関わり

日本におけるオープンソースコミュニティとの関わり例として、Apereo コミュニティとの関わりを整理する。日本においては、Apereo Foundation の前身である Sakai Foundation と連携する形で、2008 年に Ja Sakai コミュニティが設立された。日本版 Sakai の開発・機能強化および利用促進と、その実践を通じて Sakai Foundation が掲げる目的・ミッションを達成することが同コミュニティのミッションであった。現在に至るまで、カンファレンス等を通じて Sakai を中心

としたソフトウェアの日本における利活用事例を国内外に発信するカンファレンスを活動が続けている。なお、Ja Sakai コミュニティはオープンソース技術部会の Sakai サブグループとして位置づけられてきたが、2020 年 4 月に Ja Apereo コミュニティ [3] へと体制を変更し、引き続きオープンソース技術部会と連携して活動を続ける予定である。

4 日本の教育機関におけるオープンソースソフトウェア活用の現状と課題

e ラーニングシステムに限らず、日本の教育機関においてもオープンソースソフトウェアは広く利用されている。パッケージソフトウェアに比べ独自にカスタマイズができるといった利点がある一方で、コミュニティベースで開発されるためサポートサービス等がなく、カスタマイズやトラブルなどの技術的な課題には導入・運用側での対応が必要となる。このため、オープンソースソフトウェアの運用にはノウハウを持つ技術者が欠かせない。しかし、日本の大学の体制として学内で開発運用ができる環境は限られており、業者に導入や運用を委託するケースも多い。更なる利用促進のため、どのように技術者を育成するか、あるいは導入・運用面でのノウハウをいかに共有するかといった点が課題としてあげられる。

5 まとめ

オープンソースコミュニティへのコントリビューションには、金銭的なものから技術的なものまで、さまざまな形がある。AXIES と Apereo Foundation との関わりについては今回 MoU として整理されたが、教育機関において利用されているオープンソースソフトウェアはこのほかにも多く存在し、それぞれにコミュニティが存在する。オープンソースソフトウェアを永く利用するためにも、AXIES として、あるいは各機関としてオープンソースソフトウェアを利用する際にどのようなコントリビューションができるか検討していく必要がある。

参考文献

- [1] 大学 ICT 推進協議会 オープンソース技術部会、<https://oss.axies.jp/>.
- [2] Apereo Foundation、<https://www.apereo.org/>.
- [3] Ja Apereo コミュニティ、<https://ja-apereo.atlassian.net/>.